

# 陰翳の中の色彩美

— 日本 の 伝 統 —

2021 12.17 fri → 2022 3.25 fri



令和3年度文化庁大学における文化芸術推進事業

我々の知る世界、それは所詮、我々の目や耳を通して認識しているものであるから、我々の目が曇れば世界も曇るとは、ウパニシャッド哲学の梵我一如という言葉の教えるところ。これは、目に見える色は見る者の内面であり、見る者の内面が色として見えるという色即是空即色は色の思想に通じます。我々の視覚が、注目した前方のごく限られた範囲から飛来する高々波長380～750nmの光を捉えているに過ぎないことを考えれば、目に見える世界がいかに限られているかは自明ですが、古来の哲学はさらに踏み込んで、我々の心の中までをも見通して「見える」を定義しています。そして、その哲学はシルクロードの終着点である日本列島へ到来しました。沈み込む太平洋プレートのエネルギーで火山噴火や地震を繰り返し台風の風雨や豪雪にさらされる厳しい土地を、温帯の豊かな植物が包み込んで四季を彩るこの列島で、日本人は、八百万神に己の業の数々を映しながら日本伝統の色遣いを含む独自の文化を育んできました。我々は、外光を減した家屋の陰翳の中で鋭く細やかに研ぎ澄まされた色彩感覚をもって、四季折々を彩る植物の装いから命名した色の数々を愛でてきたのです。皆さまが、陰翳の中ではじめて輝きを放つ色彩美を伝える日本の伝統文化に接し、世の喧騒に埋もれた地味でありふれた日常(陰翳)の中にあってもみずからの存在を認め、確かに明るく生きる術を見定めるきっかけとなることを祈って企画致しました。

本展ディレクター 森山 剛 (工学部工学科准教授)

## 能舞台と能装束

(※展示入替あり、詳細はHPでご確認下さい。)

渡辺 尚美(渡文株式会社)、松山 隆之(能楽シテ方観世流)、田野倉 徹也(数寄屋建築家)  
古来屋外に置かれ日中の演能であった能舞台に人工照明はなく、外光を取り入れた陰翳の中で装束や面が演技していた。ここでは、実寸大の能舞台四半分にし陣唐織の能装束を、日光の時間変化を模擬した高演色LED照明下に展示することで、本来の色彩美を体験する。



能装束・帯地 (製造:渡文株式会社)

## 床の間

三浦 大徹(武者小路千家)、田野倉 徹也(数寄屋建築家)

数寄屋(茶室)の深い庇(ひさし)や砂壁はことごとく外光を遮り、吸収し、必要最小限の明かりの中にもてなしの陰翳を造る。ここでは、能舞台の檜(ひのき)材に呼応して杉の香りのする床の間で、時間と共に変化する日光が下地窓(墨跡窓)の障子越しに柔らかに花を照らす様子を体験する。

## 谷崎 潤一郎「陰翳礼讃」

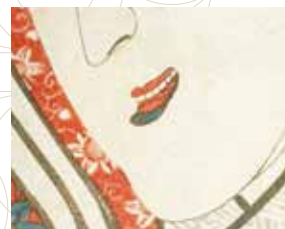
協力: 芦屋市谷崎潤一郎記念館

谷崎潤一郎(1886-1965)の著した「陰翳礼讃」は、明治期に一気に西洋文化に駆逐された日本古来の光や色の感覚、またそれらを前提にしていた建築様式や生活道具、芸能の持つ本質的な美の様式を指摘した名著である。昨今の昭和ブームに代表される陰翳への回帰運動が、その普遍性を証明してはいましか。

## 笹色の紅

研究者代表: 矢島仁(芸術学部映像学科准教授)

江戸時代末期の日本では、唇を緑と赤とに塗り分ける化粧が流行っていたという。なぜ、赤い紅花色素が緑色の光沢を持つのか、その謎に迫る学術研究の成果。2021年度ヘルシンキ国際教育映画祭(Helsinki Education Film Festival International)において最優秀芸術教育映画賞を受賞。



笹色の紅

## 和の色の広がり

森山 剛(工学部工学科准教授)

古来日本には赤(明るい)、黒(暗い)、白(我々の存在を超えるもの)、そして青(色相を持つ色彩のすべて)の四色があったと言われる。年月を経て現在の我々が「和の色」と考えている色の、色相や彩度、明度が全色空間の中でどのような広がりをもつのかを体験する。

記念  
ワークショップ

## 文化の萃点 ～能楽と茶の湯の陰翳～

講師: 松山 隆之(能楽シテ方観世流)、三浦 大徹(武者小路千家)

2022.2/19(土) 10:30～12:00 (※事前予約制。詳しくはHPでご確認ください。)  
東京工芸大学厚木キャンパス 7号館 1階 711教室

cololab  
gallery  
カラボギャラリー

- 開館時間: 月曜日～金曜日 12:00～17:00 【入場無料】
- 休館日: 土曜日・日曜日・祝日 (※臨時開館閉館あり。HPでご確認ください。)
- 会場: 東京工芸大学厚木キャンパス12号館2階 カラボギャラリー  
〒243-0297 神奈川県厚木市飯山1583 TEL:046-242-4111  
<https://collab.t-kougei.ac.jp/gallery/>
- 主催: 東京工芸大学 色の国際科学芸術研究センター
- 協力: 公益財団法人手織技術振興財団、渡文株式会社、国際交流基金(JF)、  
芦屋市谷崎潤一郎記念館、株式会社アヴニールマックス、  
HIGURE 17-15 cas、Sadatomo Kawamura Design

新型コロナウイルス感染症対策のため現在事前予約制となっています。  
詳細および最新情報はHPでご確認ください。▶  
<https://collab.t-kougei.ac.jp/gallery/>



小田急線「本厚木駅」からバス20分(厚木バスセンター 7番乗り場「東京工芸大学」行き)